



令和3年度の保健師職能委員会だよりをお届けします。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大で今まで通りできないが様々ありますが、職能委員一同頑張りますのでご協力よろしくお願い致します。

—令和3年度 保健師職能委員の紹介—



役 職	氏 名	所 属
担当理事（副会長）	小川 薫子	草津市役所
委員長	明石 圭子	長浜市役所（健康企画課）
第1地区支部委員	佐野 実生	大津市瀬田地域包括支援センター
第2地区支部委員	富澤 加奈子	野洲市役所（健康推進課）
第3地区支部委員	西村 尚子	甲賀保健所
第4地区支部委員 （副委員長）	仲野 美根子	近江八幡市役所（健康推進課）
第5地区支部委員	吉野 睦	彦根市役所（健康推進課）
第6地区支部委員	安井 和美	長浜市役所（健康推進課）
第7地区支部委員	高木 久美子	高島保健所

—令和3年度 職能委員活動方針および活動計画—

《方針》★職能だよりを活用し、保健師の活動、看護協会の活動をわかりやすく伝える！★

今年は新型コロナウイルスの流行による緊急事態宣言等の影響で、保健師職能委員会活動のスタートが遅れてしまいました。活動期間が限られてしまったこともあり、保健師会員に看護協会活動を伝えることを中心に職能だよりを作成し、看護協会や看護を取り巻く世の中の動きを少しでも理解してもらえるようにすることを今年の目標にしました。

本体の看護協会はWEB会議利用等によって可能な範囲で活動を続けておられます。また、保健師職能委員会は、①保健師のキャリア形成・ラダー活用推進に関する事、②自治体保健師の確保定着に関する事、③地区支部における行政保健師と看護職の連携推進に関する事の3項目を審議することとなっています。参加した看護協会の会議の報告や職能委員会の活動等を順次掲載していきます。

- 《計画》・保健師職能集会 令和4年2月頃
 ・保健師職能委員会だより 不定期

報告 I 一 職能委員会ではこんなことを話し合っていますー

★キャリアラダー、個人的には役立っているけれど組織としてどう活用する？（審議事項①）



令和2年度に実施したアンケート結果や今年度の委員会での話し合いから、ラダーは主観的な指標であり、個々の保健師が自らの弱みや強みを把握でき、人材育成指標として面談に活用されていることが確認できました。しかし、組織として全体の傾向を把握し、個々の強みを伸ばす、キャリア形成に役立つ環境を作るところまでの活用していない市町が多いという現状もわかりました。

個人の指標としてはもちろんですが、組織的にも有効活用できるのではないのでしょうか。組織として評価している市町の活用例を紹介します。

<評価活用例>

回答者全員の結果をキャリアレベル*1ごとに、保健活動の項目の4段階評価を集計*2し、回答者数に占めるAまたはB評価の者の割合を確認することで、キャリアレベルごとの傾向を把握し、次年度の組織の人材育成の取組みや研修項目等を検討するときの参考にしています。

【A-3 レベル】 保健活動の確認項目	評価				A、Bの割合
	A	B	C	D	
1-1 個人および家族への支援	8人	2人	0人	0人	100%
2-1 地域診断・地区活動	6人	2人	2人	0人	80%
3-1 事業化・施策	5人	3人	2人	0人	80%
4-1 健康危機管理の体制整備	1人	3人	4人	2人	40%

健康危機管理について自信のない人が多い・・・

*1 「自治体保健師のキャリアラダー」における専門能力のキャリアレベル1～5の分類のこと

*2 各「キャリアレベルのチェック票」のA～Dの4段階のこと。

★伝わらない・気づけない保健師の仕事の面白さ（審議事項②）

健康課題の多様化・複雑化が進むにつれ保健師の業務が拡大しているため、仲間の離職を防ぎ、仲間を増やすことを考える必要があります。

まず、仲間を増やすために看護学生に保健師過程を選択してもらう必要がありますが、「資格取得目的で保健師養成課程へ進む学生がいる」「地域実習の時期により、保健活動を経験する前に看護師の就職が内定している」「保健師の魅力が学生に伝わっていない」などの課題が見えてきました。

保健師の定着については、「保健師の面白さに気が付くまでに時間がかかるので、早期に退職してしまうことがある」等の課題があります。

保健師の人材確保と定着に関しては戦略的に取り組む必要があります。

体験が大切！

- 保健師の仕事の魅力については、言葉だけで説明する事は難しく、経験することで気づくことがあるので、公衆衛生看護学実習時に自治体で働く保健師の面白さややりがいを体験できるように仕組む。

先輩が見せる・育成する！

保健師の魅力をたくさん体験
してもらいましょう！！～

- ・一緒に仕事をする中で、「見せて、見守って、やらせてみせる」ことを大切にし、地域住民と協働し保健活動を展開する経験を積み、面白さを実感できるようにする。
- ・中途採用者にも、その人に合わせたキャリア育成を行う。
- ・新任期からの育成体制を整える。

報告Ⅱ 一会議出席レポート

○令和3年度滋賀県看護協会地域看護ネット報告会-地域看護力向上をめざして-

「地域看護ネット」は、各地区支部内のあらゆる場所で働く看護職が自らの役割発揮と連携を強化し、地域住民が住み慣れた地域で自分らしく暮らすための地域ケアシステムを推進するため、平成30年度から支部毎に取り組んでいます。各地区支部の保健所統括保健師、市町統括保健師が活動に参画しています。

◆開催日時：令和3年7月17日（土） 9：30～ 12：00

◆開催場所：看護協会研修センター

◆「地域看護ネット」の1年間の取り組み報告 第1～7地区支部の代表が発表

- ・各支部ともコロナ禍のため会議ももてず、計画どおりいかない状況であり、新型コロナウイルス感染症について情報共有や研修会等の報告をされました。

◆講演「地域看護力向上をめざして！」

講師 日本看護協会 専務理事 勝又 浜子 先生（保健師として滋賀県に従事後、厚生労働省へ定年退職後、日本看護協会へ）

内容

- ・今後、感染管理の認定看護師を増加し、すべての病院に配置することを目指す。
- ・2040年、100歳まで生きる長寿時代。単身者の増加、高齢期の生活困窮化が懸念される。少子高齢化の中、看護職の医療機関以外（訪問看護など）で働く人が増加し、ますます看護職の需要が高まる。
- ・訪問看護師「倍増」に向けた確保策の必要性。
- ・看護小規模多機能型居宅介護（中重度者の在宅療養の受け皿、地域住民への健康づくり・介護予防の普及啓発等、看護職が起業する取り組み）の普及推進および設置促進。

上記について話され、看護職をめぐる現状と今後の方向性について理解でき、勢力的に取り組まれておられました。

各地区支部で研修会等が開催されますので、支部地区内の看護職と顔の見える関係を目指してぜひ参加を！！

○これからの周産期の母子ケアは大丈夫なのだろうか！？ ～令和3年度母子のための地域包括ケアシステム推進会議～



- ◆日時：令和3年9月10日（金）
- ◆参加方法：WEB会議（ZOOMによる）
- ◆参加者：各県の助産師職能委員、保健師職能委員、看護協会役員等
- ◆令和2年度からの継続会議。母子のための地域包括ケアシステムのあるべき姿について検討し、各県ごとにグループワークがありました。

周産期の母子を取り巻く環境は、少子化・人口減少とともに産婦人科を標榜する医療機関数は減少してきていますが、NICU（新生児集中治療室）・MFICU（母体胎児集中治療室）の施設数や患者数は年々増加してきており、産婦人科及び小児科医師数も増加傾向です。令和元年に成育基本法が施行され、成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対して必要な育成医療等を切れ目なく提供するための施策を総合的に推進するようになりました。

このような中で、今までの滋賀県の周産期の母子支援は、保健所単位のハイリスク妊婦の会議や連絡票によって病院と地域行政の基本的な連携はできているように感じました。

しかし、今回の新型コロナ流行によって、院内では家族の面会ができない状況が続いており、今まで実施していた教室等もできなくなっていたり、産後ケア事業も縮小を余儀なくされたりと母子支援が十分できない現状が確認されました。

また、県内の分娩施設が4医療圏に集約されたことで、自宅と出産施設の距離が遠くなることや、院内助産施設が集約化に伴い閉鎖され、助産師のキャリア育成も難しくなっている現状が報告されました。

今後、自宅と出産施設の距離が遠くなる現状に対して、今までの保健所単位の地域ケアシステムは機能するのでしょうか。また、助産施設の減少による助産師のキャリア育成をどのように行うのでしょうか。

絶えず変化する環境に合わせて母子の周産期ケアを変えていく必要があります。そのためにはアンテナを高くして正確に実態を把握する必要があります。まずは、県内の助産施設の集約化の影響を把握する必要があるということで、滋賀県のグループワークは締めくくられました。

—お勧めBOOKS 読んでみたら良かったよ！—

『 52ヘルツのクジラたち 』

町田その子著 中央公論新社 2021年本屋大賞受賞作

今回ご紹介する本は、専門書ではなく小説です。

過去を断ち切って移住した町で主人公は、13歳の少年と出会う。虐待を受けていた少年をみた主人公は、自身のかつての姿と少年を重ね合わせて、「聞き逃した声に対する贖罪(しょくざい)」として少年を助け出す試みを行うという内容です。

虐待のニュースは、度々耳にします。ケースワークでもかかわることの多い事例ではないでしょうか。支援者として虐待をみることはあっても、当事者の立ち位置で心情をみることは少ないのではないのでしょうか。この本は、虐待・介護という事象を違った方向から考えさせられるものでした。ぜひ、みなさんも読んでみてください。



発行：公益社団法人 滋賀県看護協会（保健師職能委員会）
TEL：077-564-6468